

野木小同窓会報

第4号

昭和63年12月

野木小学校同窓会編集部

# 会報の発刊にあたって

同窓会長 喜多利夫

会員の皆さん、御健健にてお励みの事と拝察致します。

木村長、福井県議会議員、農業協同組合長、県五連会長等

日の過ぎるのは早いもので

要職に就かれ、福井県知事に

四回目の会報をお届けするよ

当選以来五期二十年の歳月を

うになりました。今年は野木

福井県政の発展のため減私奉

の里も豊かな実りの秋を終え

公御務められました。今日の

麦の緑があちこちに芽ばえて

福井県を礎き挙げて来られ、

おります。故里の唯一の会報

その功績は県政史上始まって

として、会員の皆さまに育て

以来の偉大な政治家であらせ

ていただき、多くの方々から

られ、従三位勲一等瑞宝章の

の御投稿を賜り発刊できます

受賞に輝やかかれ、御本人御家

ことを厚く御礼申し上げます。

門の御榮譽は申し上げるまで

会員の皆さま既に御承知の

もなく郷土野木のこの上もな

事でございますが、当同窓会

い誇りだと信じます。

の会員でもあり、名誉会長で

中川知事様には常に郷土を

あらせられた前福井県知事

愛され、諸般に亘り御導きを

川平太夫様が昭和六十二年

いただきましたが、野木小学

月十四日急な病で薬石の効な

校の教育については事の外温

く御他界致されました。野木

校の教育については事の外温

小学校卒業後は同校教頭、野

校の教育については事の外温

や庭園、校門、文庫と数多くの設備が遺されており、育ちゆく後継者の立派に成人することを願われたことは私共一同御遺徳の偉大さとお慰び上げますと共にみなさまと共に中川知事様の御冥福をお祈り致したいと念じております。

野木小学校も六十三年四月の異動で、三カ年の長い間、学校長として又同窓会の顧問としてお世話になっておりました大岸先生が御退職になられ、後任に教頭先生であられた竹内先生を校長先生としてお迎え致し本会のためお世話になっております。又、高橋先生を教頭先生としてお迎え致し当会のお世話役を御依頼しておりますと共に、新任された諸先生にも当会発展のため御協力をいただいております。

又、野木小学校の東側（兼田側）に恵懐公園が上中町の御力添えと野木公園整備委員の方々の御努力で竣工致し併せて土地改良の竣工記念碑が改良区の方々の御熱意で立派に出来上がりました。野木地区忠霊碑と共に故里の風致の美しさは一幅の画のようであり、故中川知事様の御揮毫で「深謀遠慮、

「可成」と墨痕たくましく刻されており、永代に亘り野木の里人達の指針として私達一同深く深く心に秘めたいと思ひます。

同窓会員のみなさま、御高令の方々は益々御健康に御留意をしていただき、よき熟年をそして若いみなさま方は心身共に鍛えになって御活躍を致されますようお祈り申し上げますと共に、当会の発展のため御援助を賜りますよう御願ひ申し上げまして発刊の御挨拶と致します。

## ご挨拶

校長 竹内 潔

野木小学校同窓会員の皆さん、益々、御健勝にて御精励の事とお喜び申し上げます。

私は、昭和三十五年度と、三十六年度の二カ年間、本校に勤務し、それから二十年後の昭和五十四年より御縁あつて、現在迄お世話になっております。

始めの三カ年は教務として五年間は教頭として、本年四月より、校長として勤めさせ

ていただいております。同一校にて昇進させていた、く事は甚だ珍らしい事でございますが、私にとりましては、ほんとうに有りがたい事と感謝しております。

職種が変わる度に、その重大さを自覚し決意を新たにしております。浅学非才な者でございますが、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

昭和六十年度に、グラウンドが整備されましたが、校下の皆様方をはじめ、同窓会員の皆様より絶大な御援助をいただきました。教頭として、お名前を記帳するごとに、お一人おひとりの温かいお心を、ひしひしと感じました。多くの方々から、学校にお寄せ下さる御厚意と御熱意の深さに感謝し、皆様方に報いるべく決意を新たにしております。

その後、すべての面にわたり、環境が整備されました。現在、本校には、登校拒否や、いじめ、非行面で困る事はありません。明るい野木の子、百十一名と職員十二名がすばらしい環境のもとで、楽しい学校生活を送っております。

何分にも微力でございますので、御期待に添えない事と

存じますが、誠心誠意努力していきますので、今後共、御協力、御指導賜りますようお願い申し上げます。

学校の辺りを通られる事がございましたら是非お立寄り下さいまして、私達を励げまして頂きますようお願い申し上げます。

# 野木の夢

恵懐公園整備委員会  
会長 丸井一郎

各分野で賢人たちがそれぞれ努力されて、野木の大地に夢を刻んだ集大成として、恵懐公園を建設したものです。

たとえば、野木公民館は建設委員会が、小学校グラウンドは整備委員会が、地区内の県道や河川は当時の区長会が、圃場整備は改良区が、農協のスタンドや支所は地区農協理事と言うように、地区で担当を分担して寸暇を惜まずして進められたもので、次の新世代に贈る意義ある賜物なのです。

さて、ことの起りは北川の増水期に、野木川や杉山川の河口が水浸しの田んぼになる

ことから、圃場整備に平行して嵩上げをしようとすものです。

二十万㎡とも三十万㎡とも考えられた土砂の調達先なのです。地区内で、最も崩しやすい山鼻は、堤の井根山、玉置のろくろ山、中野木のクジラ鼻、下野木の国富方面の山で策が練られた。

時を同じくして、故中川知事が町農協長として農協理事を引き連れ、中国桂林を旅した。コースのひとつ、離江下りの船の中での一日、老酒を呻るか、山水画の風光に酔い知れるかの旅であった。

ある方が、馴れない船旅と酒に悪酔をして、デッキで大きな口を川へ向けていると突然波静かな鏡のような水面に巨大文字が映った。

それは前方遥かな山の絶壁に刻まれた古代の文章であった。これにヒントを得て、山を崩して田んぼや県道に土砂を使い、残った岩を絶壁に仕上げて国道から望める野木のシンボルを造ろうとしたものです。岩の硬さ、運搬方法、費用が検討され、町の企画課も招いて助言を請うた結果、公園化事業を求めることとなった。早速、町、区、全体として中

ほどに位置する玉置、武生間の山鼻と決定し、完成予想図がコンサルタントに発注されて描かれた。

六十年九月二十二日小学校グラウンドの完成式典に出席された故中川知事に、記念公園完成予想図を掲げて陳情した。大きく立派なもの良いが、

岩山には木々の植栽が難しいのと費用が莫大となることから、地元へお預ずけと相なった。

その後、田んぼ嵩上げの土砂は小浜市の多田川から、県道用盛土砂は、中川や杉山川の掘削からどんどん出て来た。

六十年春頃から、堤、杉山地係に若狭中核団地計画構想が、クローズアップされ始め公園の話は、事に当たった方々からは忘れ去られてしまった。六十一年になると「中核」

の話は、一段と熱気を帯びて地区全体が、いや上中町が騒然として、県道や河川の計画、圃場整備計画の見直しが必要となり、「中核」で始まって「中核」に終わる毎日であった。

そんななか、六十一年九月三十日であった。以前申し込のあった公園事業を、六十二年度に予算を付けますから、近日中に県の自然保護課へ説

明に一度来るようにとの連絡であった。

これが、世に言う「寝耳に水」である。「中核」でてんやわんやのなか、ひとつ地区としての課題が増えた訳です。

地区の賢人たちが会議に会議を重ねて将来の目的や意義内容、場所、経費の捻出方法等の検討がなされた。六十二年一月に、昭和の夢の集大成として公園建設しようと決定したのです。その名称も、昔近くに建てられていた恵懐小学校を忍んで……。

最後に末筆ながら地区の皆さま方をはじめ、関係地主、武生区役員、議員、県や町の関係者、施業者、その他関係者の方々に、深いご理解と多大のご協力を頂きましたことこの紙面をお借り致しまして厚くお礼申し上げます。

今後、我々と致しましては、百年、二百年後の方々に、地区の各分野で活躍頂きました「力の業」として夢見て頂けるものと確信致しております。公園としては、まだまだ未完成なものです。庭石に菌（くさびら）が生えて、日ごとに重みを増すよう、確かな完成品となるよう努力致す所でございますので、皆さま



まの益々のご協力、ご鞭撻をよろしくお願ひ申し上げます。

〔写真説明〕

近代的に少しづつ生まれ変わる小学校グラウンド横に六十二年八月二十四日福井県知事栗田幸雄氏をむかえて、完成した公園。ゲートボール場二面、休憩所一棟、池等が完備され野木地区民の憩いの場、ふれあいの場として最適な場所であります。遠隔地におられる方も一度で良いからふるさとの変貌を見に来て下さいお待ちしております。



〔住民センター前に建立された中川平太夫氏の像〕



「父の人生」を思う

上野木 中川平 一

父が県立病院へ入院して一週間程たった去年（昭和六十二年）の五月の連休の頃のことです。私がベッドの側にいると、父は

「病気が治ったら上中へ帰ろうかな。上中の家では、今、お前達が住んでいる離れの二階が一番いい部屋や。あの部屋から眺めた景色はいい。わしは好きやな。」

と陽気な五月の窓の外を見ながらぼつりと言いました。実はその二、三日前、私は担当の医師から父の病状の容易ならざるを聞いていました。病院の窓から見える外の景色はのどかな五月でしたが、私の心中はそれどころではな

く、なまり色の冬空の下にいるような重苦しいものでした。そのせいか、その時の父の言葉、その時の情景を印象深く覚えていきます。今まで前進するこ

とばかりを考えていた威勢のよい父にしては、変なことを言うなあ、気まぐれを言っているのかなと思つたのです。

早いもので父が亡くなってから一年四カ月が過ぎ去りました。この一年余りの年月は若干オーバーな表現を許していただくならば、経験不足の私にとつてはまったく気の休まる暇もないものでした。父の立場が立場であつただけにその後の諸行事の規模も大きく、私なりに大変気を使うことが多かつたのです。

この一年余りの経験から父の人生を推し測ることはおこがましいでしょう。しかし、それにしても「親父の人生は大変だつたらうなあ」と実感できたように思います。今思いますが、特に知事在職中はたまに上中へ帰つても仕事から解放されることはなかつたようです。父とゆつくり話をするのは一年に数回しかなかつたのですが、そんな時でもたえず頭の片隅から仕事のこと

は政治家が天職だといえる程、そうした忙しさが性に合っているようでもあり、また楽しんでいられるようにも見えました。父もまた人間です。

二十年という長い間には、それこそ眠れない夜も、人には伺い知れない苦しみもあつたと思います。一言の弱音もはかない父ではありませんが、華やかな外見の反面、おそろしく心の休まる暇もなかつたでしょう。父は私によく「人間は努力だ」と言っていました

が、そうした言葉も今思うと一面では自分自身を励ますために言っていたような気がします。

父が亡くなって一年程たつて、県立病院でぼつりと言つた父の言葉は、案外、本心ではなかつたかと思うようになりました。父の人生は、ひたすら前に向かって突つ走つてきたと言えますが、二十年という長い区間を走り続けて精魂つき果てていたと思うのです。やる気こそまだまだ失つてはいませんでした。一段落して心身の疲れを感じていたと思います。そうした父にたつて、ふるさとの山河に抱かれ、ふるさとの人々に囲まれた昔のくらしが懐しくなつ

たに違いありません。ふるさとの人々の温かさが恋しくなり、ふるさとでのくらしこそが疲れを癒してくれると思つたのではないのでしょうか。

しかし、残念ながら父は生きて故郷で気楽な暮らしをすることはできませんでした。息子としては、せめて一年でも父に生まれ故郷で心安ら

命とあきらめています。来し方をふり返り、穏やかな余生を送れなかつたということを除けば、父の人生は大変幸せな人生であつたと思えます。一周忌にあたる六月には福井に、そして八月には上中に、はからずも立派な銅像を建立していただきました。

今、父はふるさと上中の景色を存分に眺め、野木に遊んだ幼い日々を思い出していることでしょう。

父を育て、そして長い間支えてくださった野木地区のみなさまに深く深く感謝しています。ありがとうございます。

合掌

# 故 中川平太夫氏の 思い出

兼田 藤田 耕三

五期二十年間にわたって福井県知事を務めて来られた、中川平太夫さんが六十二年四月二十二日（昨年）任期満了に伴って退任された。思えば昭和四十二年四月初めての県人知事として県民の期待を担って登場した中川知事は第一期を除く四期は自・社・公・民・四党と労・農組織に支えられて、安定した政治基盤を確立、本県では戦前戦後を通じて、最長不倒の長期政権の新記録を樹立された。この中川知事の功績は偉大なものがあり、退任によって戦後の福井県政治に一つの時代をしるしたといえよう。一党一派属さない「県民党」を標ぼうし批判勢力を巧みに封じ込めながら平太夫さんしか出来ない長期政権を維持して来られ小さな町の大きな県民知事、上中町民を育み下さった。中川知事さんの政治力に支えられた上中町民、町民の願いとは裏腹に知事を退任されてからわずかに五十三日目で帰らぬ人となられた。人間の命のはかなさと計り知れない淋しきで何事も手につかずありし日の元気な平太夫さんを思い浮かべたのは私一人ではなかったと思う。退任の記者会見の言葉の中で中川知事は「私なりに今後も県政の発展に尽くしたい」と政治に希望と意欲を明らかにされていたのが先日のように思われる。

とにかく四十二年の初当選から短い二十年間であった。

## 思い出 (1)

軍服姿の中川先生の思い出「終戦後習った軍歌」  
昭和二十三年二月

野木村小学校講堂の舞台上、一級下の生徒が聞きなれない歌を中川先生に習っていた、その歌は学校の演芸会で生徒が合唱する歌で、その歌は若くして、国の為散っていく若い飛行学校の歌「同期の桜」と云う歌で私も先生に教えてもらった。私も戦争は大嫌いだであるが歌の内容（歌詞）が好きで今でも愛唱している大好きな歌の一つです。

## 思い出 (2)

オート三輪車（愛称パンパン）  
三輪トラック  
昭和三十一年八月十六日  
午後四時すぎ上中工務所前に平太夫氏（重）のパンパンが

止まった。みんな乗れや、敦賀へ灯ろう流しに行こうか、誘われるまま六次が乗り込んだ、隣りの自転車屋の赤井のサンチャンに工務所の人が出た後の戸締りをたのみ、平太夫さんの運転する三輪トラックは曲りくねった砂利道を砂ぼこりをかぶりながら方向が違う保坂峠を越えて今津まで来たが、トラックの上で座布団無しですわっている為尻が痛くてたまらない。そこで「中川さん尻が痛くてたまらんのー」誰れかがいった。「今一服するさかい一寸待ってくれ」間もなく停車した所は一パイ屋「おぼん来たぞ」平太夫さんと乗り込んで来た我等も中に入り一パイ飲んだ、少しは酒のお陰で尻の痛いのが治まったが気温が高いのと、一パイのお陰で体が焼けつくようにあつい。敦賀へ行くと思いたのが間違っていたのかと思っていたら「さー行くぞー早よ乗れや」敦賀まで砂利道を三輪トラックの上で酒のお陰も手伝って我慢しながら敦賀へ着いたのが日が暮れていた。八号線津内一丁目付近で三輪トラックのスピードが落ちて左側へ寄った途端「早よ降りや、前に警察が張つとる」後

の荷台に乗って来た六名は一気に後から飛び降りし三三五五別れたが、私は平太夫さんが気になった為遠まわりして警察の言葉を聞いていたが平太夫さんは何もなかったようにエンジンをかけて何処かへ行ってしまった。我々は行く先もわからず、しかたなく汽車で帰ることになり、駅へ行つたが作業服のまま乗ってきた為、六名分の汽車賃もなく栗野駅までの切符（当時十円）を六名分買ひ、上中駅まで乗り越し、上中駅長さんに事情を説明し、事務所まで行き、金を持参して栗野駅から乗越分一人当り四十五円払った事を覚えている。八月十七日朝中川平太夫氏が来られ昨日は弱ったわいやー行先いわずに変なことになつて料理屋へ着いて待つとったけんど誰も来てくれんさかい料理の処分に困つたわい。わしも、

「長い間いろんなご馳走を食べたり、食べてもらつたりしたが昨夜のように食べずに金を払つたのは初めてだ、どこでおまえらどうして帰つたか」昨夜の事情を話して大笑いしたことを思い出したつかしん思っています古き良き時代です。



〈写真説明〉

かつて誰かの学び舎だった思い出多い堤分校、今は家主のあばれん坊主もいなく、さびしくたたずむ堤分校、何百人かの人々が育んでくれた分校も時代と共に老いて行く。

## 雑感

向日市 倉谷 康

昭和十二年生まれ、野木小  
学校に入ったのは昭和十八年。  
町村合併により中学三年の  
二学期から上中中学校に転校  
するまでの八年半をお世話に  
なりました。

典の折だけに私達の目尻前に  
姿を現わし、「気をつけ」「礼」  
の合図と式典音楽の伴奏だけ  
だったと思います。

オルガン、これは音楽室に  
常駐し付き合われましたが  
子供心にも決して良い音色に  
は思えなかったものです。そ  
して、ハーモニカ。これは、  
父が私達兄弟に一個ずつ買っ  
てくれたもので、兄は流線  
型、私のは四角張ったもので  
した。しかし、折角買っても  
らいはしたものの、どちらに  
高音を持つのか分かるすべは  
ありません。不幸なことは三  
つ子の魂なんとやらかもしれ  
ませんが、大人になってもハ  
ーモニカを手にしても左右反  
対に持たないとスムーズに吹  
けないのです。これには驚き  
です。

何か契機となったのか定か  
ではありませんが、二十才前  
後から音楽に興味を示すよう  
になり、一生の趣味といえる  
ようになっております。とは  
言うものの私達の小学校時代  
の音楽とは一体何だったのだ  
でしょうか。月並みな言い方  
ですが、「音が苦」の一人だっ  
たのではないでしょうか。好  
きになった曲もあつたでしょ  
うが教科書すらない混乱の時  
で耳に覚える以外に方法はな  
く、「お山の杉の子」も「し  
いの木林」なのか「ひいの木  
林」なのか分からなくとも適  
当に歌っていたものです。

楽器と名の付くものといえ  
ばピアノ。これは講堂の舞台  
の横の部屋にあり、何かの式  
唱歌全集が本棚にのっていた  
ものですが、小学校で習った記

憶というのは案外少ないもの  
でした。

しかし、ホーム・ミュージ  
ックを聞いてみてもまた、一  
昨年ころからブームになった  
鮫島有美子の「日本のうた」  
等を聴いても知っている歌が  
多いのです。何時、どこで、  
どうして覚えたのかは分かり  
ませんが、小さい時に歌った  
のでしょうか。

この年齢になると器楽演奏  
もさることながら、人の声に  
懐かしさを感じ、安らぎを覚  
えるものです。今は世も移り  
変わり譜面を見て笛を吹き、  
ピアノを弾くことも当たりま  
えのご時世です。音楽鑑賞も  
生演奏にも接しられます。そ  
ういう意味では満たされてお  
ります。

## 小学校時代の思い出

東京都 松見 清

しかし、教科書の枠の中だ  
けの鑑賞でなく、幅広くよい  
ります。

子供達の体に吸収させる  
ことができるのも小学校の場  
にはあることと思います。前  
記「日本のうた」等はソプラ  
ノであつても、「ソプラノで  
ございます」と言った。気取  
ったところのない日本人であ  
れば心の琴線に共鳴するもの  
があると思います。是非とも  
子供達にも聴かせてやつてほ  
しいものです。

人間年を経ても何かの拍子  
にふと子供心を思いださせる  
曲はいつの時代にも必要かと  
思います。何才になつても、  
故郷は故郷です。野木小学校  
で過ごした六年間が楽しい思  
い出作りの場であつてほしい  
ものです。(第四十回卒)  
(註)倉谷さんから文中のカ  
セットテープを送ってもらい  
ました。

同日窓会報を送っていただ  
けがとうございました。懐  
しく拝見し野木小学校時代の  
六年間を思い出しました。

私は、昭和三十九年東京オ  
リンピック開催の年、また東

らませて上京しました。それ  
から早や二十四年がすぎまし  
た。野木小学校入学が四十年  
前ですから遠い昔になります。  
現在でも当時のイガクリ頭  
オカッパ頭のままの同級生を  
思い出します。木造二階建校  
舎の窓は現在のようにアルミ  
サッシではなく、木製建具の  
ために冬は隙間風で寒く、暖  
房は教室の後ろにある一台の  
ストーブだけでした。クラス  
全員がストーブのまわりに集  
まり、コッペパンを焼いて食  
べた事が楽しかったと記憶し  
ております。また積雪二メー  
トルの大雪で凍結しているた  
め道路に関係なく、家から学  
校まで雪の上を一直線に歩い  
て川に落ち、腰より下がずぶ  
ぬれになり登校してストーブ  
で乾かしたこと。夏は学校か  
ら帰ると家にカバンを投げ込  
み、川原に魚を取りに行き、  
夜おそくまで夢中で遊んだこ  
と等が良き思い出として残っ  
ています。

以上、思い出したことを断  
片的に書いて見ました。最後  
に、母校とふるさと野木の益  
々のご発展を心からお祈り申  
し上げます。

(第四十五回卒)

# 無題

京都市 宅間 義雄

# 投句

小浜市 清水キク枝

昨年十月に京都で「ふるさとかみなか味まつり」が盛大に開催され、町の発展と活性化に努力されておられる様子がよくわかり、私達にとつて力強く大変喜んでいきます。

今回、同窓会報を送って頂き会員の方々の思い出や写真を見せたいと、見覚えのある先生や地名等を思い出して大変なつかしく読ませて頂きました。

京都から「雷鳥」で四十分余り、今津でバスに乗りかえて峠を越えると、なつかしい山や川につつまれた静かな町

これが私の生まれたふるさとです。年に一度帰ることにしています。今では、木造だった校舎も、よく遊んだ川もありませんがどこか安心します。

戦後、二・三年生であった私達は品不足、食糧難で教科書のおそまつな事。しかし、現在ではテレビ映画のイラストや舌をかみそうな名前のついた鉛筆やノート等、何不自由なく生活しているのを見ると「戦後は遠くなりにはり」

の感を強く感じます。いざれの時代も大人に責任があるのではないかと、子供を持つ親になって考えるようになった今日このごろです。

最後に小学校同窓会の益々の発展と会員皆様様の御健康と御多幸を心から祈りつつ、ふるさとのおいがする会報を心待ちにしています。

(第四十一回卒)

○年寄りとなりにし人の過去おもふ  
○ふる里の旧道今年も  
彼岸花

(第三十二回卒)



# 編集ごっこ

京都市 柳田かな江

「学級委員会をお願いします。仕事は育友会新聞作りです。」

長男が小学校へ入学したある日、先生から電話があった。

「面白そうだな。」やがて会議が開かれ、担当ページが決められた。育友会の行事があれば必ず出席し、メモを取り、記事をおこす。紙面を割りつけし、レイアウト、字体

大ききなど作業はいくらでもあった。発行日は学期の最後の日と決まっている。なれな

い作業で予定通り進まず、家でもカッターを書くこともあった。二期になると、少し欲が出て全校生からアンケートをとった。この集計が大変で

何度も学校へ足を運んだ。そして三期、新聞が発行された時、班の人はみんな友達になつていた。

学校への理解が深まり、広報紙作りの苦勞も味わつた。二期の時のアンケートのことを新聞に投稿して掲載さ

れ、謝礼というおまけまでついた。仕事をしながらなので時間のやりくりに追われたけれど、この体験をさせてもら

# 思い出の通学路

大阪市 南谷 順子

つたことを今では感謝している私。広報紙は読んでいたけど、心から思う。  
(第五十二回卒)

同窓会報並びに寄稿の用紙を載せました。童心にかえつてしばしば思い出させていただきます。

小学校は杉山だけが分教場で三年まで過ごしました。中川善吾先生に二年生まで教わつたように思います。当時は太平洋戦争もたけなわで、ときどき鍋や釜を頭にかぶつて裏山へ逃げる訓練をしたものでした。幼な心で戦争の真の意味もわからず、ただひたすらに走つて行つたなつかしい思い出です。そして、昭和二十年八月十五日に終戦となり、

今まで習つた修身の時間が急になくなり教育方針が変わつてきたことに少々の不安を感じたものでした。その頃だったでしょう。中川先生は本校へ転勤となり、代りに田中悦子先生が来られました。丸いお顔のやさしい先生でした。

年も終わりのよいよ本校

通学ですが、井の中の蛙が大海に飛び込むような気持ちでしたが、月日と共に次第になれていきました。遠い道のりで夏は暑く、途中湧き水で喉をいやし、堤のお宮さんの森で足の裏を冷やして道草をして帰りました。唯一懐しい思い出は馬車との出会いでした。荷台の上に鞆を乗せたり、飛び乗つたりして帰りましたが、運悪く見つかれば大声でおこられたものです。

幼き日の姿いずこへ  
もはや孫の手を引く  
身となりし  
本校では、おおぜいの先生方にお世話になりましたが、諸先生方、御健康でお幸せにお越しのことと信じ、より一層の御健康をお祈りしたいと思います。野木小学校は、私にとりまして野木中学校でもありました。昭和二十六年十一月一日をもって上中中学へ

通学することになりました。したがって、中学二年までが懐しの学び舎でありました。懐しき野木小学校は永久に

# お蔭様で

上中町井ノ口 浜岸 あい

人生とは永きものと思つて居りましたが、本当に早い人生でした。知らず知らずの内に私も早や七十九才とは。蔓の間にこの年になりました。

でもお蔭様で今日も元気で仕事も楽しく一日一日を感謝の気持ちでいっぱいです。

この度、同窓会報を送つていただきまして幼き時のことを思い浮べんを取りました。入学式の朝、私は父に連れられて小学校へ行きました。

時間が案外早かつたのでしよう。他のお方は誰も見えてなく、私は父に手を引かれて教員室へ入りました。ガラス戸を開けたすぐ左側に倉谷先生がお一人だけおられた。父は先生に何か挨拶をしておられました。そして、私にも、「先生にお礼をなさい」と注意され、私は何も言わずに父の後ろで頭だけ下げたことを懐しく思い浮かべておりま

残りで、教を守り郷土發展に、尽せし事を祈る者なり。

(第四十四卒)

いろいろと大変お世話になつたことを次々と思ひ浮かべ、本当に小学時代は楽しく面白かつたなあと振り返ることが度々あります。

懐しき校門を後に、卒業後は懐しきお友達とも別れ、歩む道は一人／＼別々でした。でも皆んなその道／＼で頑張りました。私はその年の十月より大阪へ奉公に行きました。上阪した当時は故郷の事が懐しく忘れる暇はありませんでした。時には人目を憚んで泣いたこともありました。

古里をはなれて初めて古里の味が身にしみて懐しいものです。夜分二階の物干台に登り、お月さまを眺めたときなどは思わず合掌して古里でも誰かこのお月様を眺めているだろうかと思うと胸がいっぱいになり、泣けてきたことを思い出します。上阪して一年余(十八才の正月)して初めて三日ほど帰宅させてもらいました。その時のうれしかったこと、もう舞鶴辺りから腰をかけていることができず、立つて窓の外ばかり眺めて三宅駅はあと幾つ目かと心はもはや三宅駅へ行っていました。

あの時のうれしかったことは今も胸中に深く残っており

- 一・二年は反保先生、三・四・五年は木戸先生、六・高一・二年は藤田先生でした。

でもお蔭様で奉公先の旦那様も奥様もとても良きお方ばかりで、私は本当に幸せでした。女のお子さん(生後十ヶ月位)がお一人おられまして、とても可愛いお嬢さんでした。十六才の十月から二十才の四月まで大変お世話になり懐しい思い出ばかりです。

お蔭様でその間大過なく無事に勤めさせていただき、故郷へ帰りました。私にとりましては大阪が第二の古里です。

その後、永き月日は去つておりますが、今日に至るも文通やお電話でいろいろと話合い懐しきお声を耳にしてよろこんでおります。

知らず／＼のうちに月日が流れ、八十才近くになりますと懐しきお友達もたくさん亡くなられ、本当に淋しい気持ちでいっぱいです。私達同級

生は毎年同級会を催してくださいますが、今では十二・三人の方が出席してくださるのです。私もお蔭様で元気で出席させていただいております。

## 思い出あれこれ

上中町天徳寺 田中ハナ子

野木小学校を卒業して五十年余りも経つてしまいました。入学してから卒業まで、ただ一度も欠かしたことがない

奉安殿に一礼した朝夕が思ひ浮かびます。あの木造の校舎

今亡き先生方やお友達のご冥福を祈りつつ。合掌 (付記) 参考までに、私の上阪したとき

- 米一俵(農家の売り値)五円
- 汽車賃(新平野から大阪梅田まで) 二円五十銭
- ハガキ一枚 一銭五厘
- 手紙一通 三銭 でした。

で勉強に運動に励んだ思い出、泣いたり泣かされたり叱られたりしたことが懐しく思い出されます。

高等一年の時に講堂が建てられました。その時に出るた

めに着物を作ってもらいました。喜ぶのも束の間、祖母がなくなり、父母に来てもらうこともできず残念ながら過ぎてしまいました。

四年生の時に舟木先生に書き方を習いました。その時に書いた字は「思必精 行必力」です。天皇陛下から天覧賜という御はんを頂きました。その時は皆んなの先生方が大変喜んでくださいました。天皇皇后両陛下の御写真の下におさめた額にして父母が置いてくださいました。今も一生の宝として大切にしております。

冬になると、毎年大雪になって玉置の集落は川と道が並んでおりますので、雪解けの頃には、川も道も区別なく水が流れます。戦争のため長くつもお金を出しても買えず、何もなかったのです。小さい子をおんぶして通いました。

福井の叔父さんが二宮尊徳先生の銅像を建てられました。それが戦時中に石像と取りかえられたとのこと。この先生にも朝夕一礼しました。何時通って眺めていてもあの校舎、立派な校門、グラウンドですね。

私達の学生時代と今のそれでは「衣食住」すっかり変わ

っていると思います。あの立派な学校で、勉強に運動に頑張って頂きたいと念じます。同窓会の皆々様の御健康と

# 神戸へ出てから六十年

神戸市 奥本長次良

御多幸を心よりお祈り申し上げます。(第二十七回卒)

## (一) 小学校の思い出

私の卒業した当時、校舎の東側に泰安庫があり、正面玄関近くに大きな柳の木がありました。卒業式のあと、この柳の木を取り入れて(大部分の生徒は羽織袴姿でしたが)記念写真をとったものでした。

私もこの貴重な写真を母が妻がしまっておいてくれたはずですが、今となっては全く探しようがないのが残念です。

## (二) 実習田

学校の東側、小川をへだてた所に一反歩ほどの実習田があり、畦ぬりや田植えから取り入れいっさいをやり、脱穀は上野木の甚左エ門さんでやらせてもらって、私もサンダワラをふんだのを覚えていました。

## (三) 藁加作業場

学校のすぐ近くの山すその小屋で、冬になると縄ないはもちろん、ハモノ、テゴ、

ミノなどをよく習ったものでした。

## (四) 武生山入口(左側)の農園

この畑でいろんな野菜を作りました。一番記憶に残っているのはトマトで、当時西洋ナスとか言って生臭いのが鼻についてどうにもなじめない味でしたが、トマトを知ったのがこれが初めてでした。

## (五) 町内各学校での合同の催物

体育会が三宅小学校で、また学芸会が鳥羽小学校で年々開かれ、ここで私も因幡の白うさぎを演じたのがついこの間のように思われてなりません。(兼田の桑原記治郎さんや山田さきさん等と一緒にだった。)

## (六) 諸先生方々

小学一年の時、一番町から通っておられた反保先生、この先生は冬になると玉置の奥本甚太夫に下宿しておられましたが、神戸へ出てから、湊

川勸業館(現在の兵庫区役所で、毎年全国水産食品即売品評会が開かれた)でくしくも先生にお会いしました。この時、先生は小浜水産先輩の沢田鉄治さん(大谷出身の方で当時、神戸市中央卸売市場の場長さん)の奥さんでした。

また最後までお世話になったのは、平野の木戸先生でした。水産学校の入学試験があると云うので、ずい分と面倒をおかけしたことを今もって忘れることはできません。

## (七) 水産学校へ

長男の故をもつて農林学校へ行くはずのところ、都合で水産学校へ行くこととなり、大正十五年四月に下野木の田中喜代志さんと倉谷盛一さん(大尉で戦死されました)、堤の岡本嘉正さんと私の四人がそろって入学しました。

## (八) 神戸へ

昭和四年、学校を卒業すると同時に校長先生の名刺をいただいで単身神戸へ旅立ちました。

この頃の神戸は、今から思うと沖繩へでも行くような思いがしたものでした。地図を拡げてみると県庁のすぐ南に三宮駅(今の元町駅)があったので、バスケット一

個をさげて三宮駅で下車しました。駅前には人力車がずらりと並び、また両替屋(円とドルを交換する店)も各所に見られ、全く異様な感に打たれました。駅から五・六分歩いて県庁(今の兵庫県公館)につきました。名刺を頼って

先ず最初に山形先輩(敦賀市気比神宮の宮祠さんの親戚の方)を尋ね、課長に紹介され、辞令をいただきました。初代の兵庫県知事は伊藤博文で、私の時は十九代目の長延連知事でした。

昭和四年という不況のどん底に入ろうとしていた時で、私の月給は四十円(当時の下宿代は二食付きで十五円)で、翌五年の新入生は三十五円でした。当時は一年でわずか一円昇給の年もあって、早く百円の月給とりになりたいと、これが私の最大の念願でした。

常々先輩曰く、奥本君、若狭人は世間知らずで、口べたで社交性がなく、そのうえ電話すら満足に扱えない。だから辛棒強く頑張り続ける以外には何のとりえもないものだと言いつつ聞かされ、全くその通りだと思いました。

当時の県庁は政治色の非常に濃い時代で、上司から何時



どんな命令が下されるかわからないので、課長など責任のある方々は事あるたびに辞表を懐にして（一つ違えば左遷されたり、首がとぶかわからないので）事件の解明に専念したものでした。そのたび毎に吾ら下々は書類などを自宅に持ち帰り、夜を徹して作業し続けたものでした。

また昭和九年から十三年の神戸の大風水害の復旧対策と十三年の戦時下、漁船の徴備事務など急務を要する時などは県庁の机の上で寝泊りして各地との対応に専念したことは一再ではありません。當時は勿論超過勤務手当一つ出るのではなく、弁当の支給すらない時代で、よくもまあ我慢し続けて来たものだと思います。

昭和十五年に私は召集令状を受け、金沢の輜重連隊に入隊することになり、その際には下野木の喜多村長さんだっただと思いますが、その他いろいろ郷里の方々にお世話になり入隊しました。一期の検閲が終わって、いったん召集も解除せられてからは今度は県庁の要員となり軍隊生活はわずか一ヶ月限りでした。終戦が近づくとつれて空襲はいよいよ

よ激化し、倉庫もますます危機にひんしてまいりました。

また食塩の自給対策が緊急事となったので、赤穂市に、県営食塩場が新設され、この運営の責任を持たされました。福井県よりの早場米供出の見返りという名目で、福井県下特に小浜市にも食塩を特配したことも一再ならずありました。

なおまた、私は徴備職の係りもしていたので、広島市宇品の陸軍運輸部で近畿、中国各府県の連絡会議があるため空瀑下の宇品に出発しました。会議終了後、即日帰神したため原爆にも会わず誠に幸せでした。終戦により虚脱状態におちいるひまもなく、次々と戦後の復興対策に専念するかたわら、二十二年には水産業振興の一策として明石市で水産博覧会を、また二十五年には兵庫県と神戸市の共催で神戸博（この跡地が現在の神戸市立王寺動物園）を催すことになり、私も經濟部全体の出展の責任を持たされました。こうしているうちにも瀬戸

その事務局が神戸市に誘致せられたので、和歌山県、大阪府からはそれぞれ水産部長、地元の水産部長から私が総務部長としてそれぞれ配属せられることになりました（部長その他の職員は水産庁より着任）。昭和二十七年に入ってからさしあたっての紛争事件は一段落したので思切りをつけ、現在の熊野工作株式会社専務となり今日に至っております。

早いものでなんら為すことのない間に人並みに喜寿を迎えることになりました。年を重ねるに従って郷里の恋しさが募ってくるものです。このころ、月に一度は墓参をかねて帰郷することにしていきますが、このごろは一入空気がうまい、水がうまい、尚これにもまして昔と変わらぬ皆様の温かい心情が殊のほか身にしみてうれしく、また有難く感じられてなりません。拙宅の一同も常々何かと大変なお世話さまになっておりますことをいつも感謝しつづけております。

（第十五回卒）

## 児童の作品コーナー

### ある日の日記

二年 小梶智美

きのう、雨がふっていておてんきがわるかったのに、夕がた学校からかえりみち、雨がやんでお日さまが山にあたってきれいでした。その山にすばらしいにじのはしがかりました。

どれくらいながくかかってるかと思つてゆつくりかぞえてみました。80ぐらかぞえたらはしのほうから、かいだんをのぼつておりていくようにきえていきました。

半分ぐらいきえたときに、たまみさんとよしえさんがにじをおいかけていきました。でもすぐきえてしまいました。

### おだんご作り

四年 塚本直子

今日は、八月十三日の朝です。おばあちゃんが仏様をかざっていました。きれいな、うちしきをかけてお花をたて

ていました。いろいろなおかしや、くだ物をそなえていました。

しばらくしてから「おだんごを作るから、てつだつてちょうだい。」といわれました。白いこなを水でかためました。

「色だんごにするのや。」といって、色をといていました。ピンクと緑と白と、三色にわけました。

おばあちゃん、こねて、長くのぼしちぎつていきます。それを、わたしがまるめました。なかなかまるくならないのに、おばあちゃんの方はすぐまるくなります。

それを三角にきれいにつめました。むして、すぐうちわであおぎました。すると、みるみるうちに光つてきました。わたしは、ふしぎに思いますが。仏様をながめると、いろいろなおそなえ物で、とてもきれいです。いつでもこんなにきれいだ、と、仏様はうれしうしろと、わたしは思っています。

おばあちゃんは、毎朝、ご

はんとおかずとお茶をそなえて  
います。よそからもらった  
めずらしい物や小浜でかい物  
をしてきたとき、いつもそな  
えています。

わたしたちが食べる物を、  
仏様にも同じようにそなえて  
います。おばあちゃんは、な  
かなかだらうと思います。

大人になつたら、おばあち  
やんのしていることをよく見  
ていて、わたしもならおうと  
思います。

朝、目をさますと、おばあ  
ちゃんとおじいちゃんは、い  
い服をきていました。

「どこへ行くの。」  
と聞いたら  
「五時におはかへまいってき  
たんだよ。」  
といいました。

「わたしも、おこしてくれ  
たいのにな。」  
といったら

「きのうの夕方にまいったか  
ら、おこさなかつたんや。」  
といわれました。

お父さん、京都のおじさん、  
おばさん、典子ちゃん、ふ中  
のおばさん、ゆうや君とお客  
さんが六人もふえます。

わたしは、にぎやかでとて  
もうれしいです。  
それでも、おばあちゃんは

「大変だなあ。」

と思います。

おばあちゃんは、いろいろ  
とおかずを作っています。

いいおぼんでありますよう  
に。

### 手ぶくろ

#### 三年 清水完全

てぶくろは  
まるでストーブみたいだ。  
でもなつになると  
つかえない。

「さんねんだな。」  
とおもった。

夏はほつたらかしにしてし  
まった。  
てぶくろは  
ないているようだ。

「かわいそうだな。」  
よる

てぶくろのゆめをみた。  
それは、  
ぼくとてぶくろで、  
ダンスをしているゆめ。

それだけ、  
ぼくはてぶくろのことを  
おもっている。

### どうぞよろしく 新入会員十九名です

焼きいもがふかふか匂う

収穫祭 北浦 光章

北風が吹いてくれれば

窓ふさぐ 高木 智大

秋の風早く帰れと

背中押す 滝 淳

秋の日は夕焼け小焼けで

顔赤い 滝 典繁

秋の風山里越えて

どこへ行く 東山 幸博

野木の山草木枯れば

冬仕度 奥本 純也

柿の木よ早くかれて

実をおとせ 植野 稔久

柿一つ梢に残りて

夕焼ける 居閑 篤典

灰色の空に灯がつく

柿の実の 高木 里枝

冬の朝みんなでいっしょに

はいた息 平岡 千里

夏服をたんすにしまいで

天高し 森 恵理子

寺庭の柿の実一つは

光りけり 小梶真由美

登校の一人を待ってる

白い息 堀口 裕恵  
落葉たきみんなの顔も  
ほてってる 清水 利香

赤とんぼ夫婦ならんで

さおの先 正木 尚子

秋深し自分の影が

長くなる 倉谷 和美

台所こたつが出れば

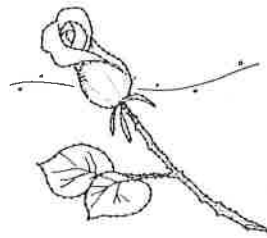
冬気分 倉谷 恵子

はち植えのぼんと咲いたは

菊の花 倉谷有里子

大輪菊大きな大きな

火花かな 田中 多恵



### あとかき

○会員の皆様お元気ですか。

お伺い申し上げます。日頃  
は本会発展のために格別  
ご理解とご協力を賜りあり  
がとうございます。

○さて、ここに同窓会だより  
第四号をお送り致します。

この会報には、学校横に  
完成しました恵懐公園や土

改良の竣工記念碑のこと、

また、本会の名誉会長であ  
らせられた故中川平太夫氏  
のことに関した玉稿を掲載  
させて頂きました。

○五ページからは、ふるさと  
をはなれてご活躍の方々か  
らお寄せいただいたお便り  
を特集しました。

○本会報発行のためにご寄稿  
くださいました皆様悲哀心  
より厚くお礼申し上げます  
とともに、編集委員の微力  
のため心ならずも発行が遅  
れましたことをおわびしま  
す。

○昨年度、会報を送付させて  
いただいたところ、町内上  
吉田にお住いの辻岡(福田)  
(第二十五回卒)フサさんよ  
り同窓会発展のために使っ  
てくださいと一万円ご寄贈  
くださいましたのでお知ら  
せします。どうもありがと  
うございました。

○最後に、会員各位のご多幸  
と本会の益々の発展を祈念  
します。

なお、編集集についてのご  
意見や会報への原稿などあ  
りましたら、左記の所へご  
連絡ください。

野木小学校内同窓会事務局

☎七七〇(五七)一三〇〇